いわて高等教育コンソーシアム
The Iwate Higher Education Consortium

第18号
September 2017

NEWS LETTER

～岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！～

Index

■ ご挨拶 1

■ トピックス 2～4

□地域リーダー育成プログラム
「地域を担う中核的人材」
認定証授与式

□いわて学Ⅰ

□ボランティアとリーダーシップ

□駅前講義

□グローカル基礎研修

□FD・SD 研修会

□地域課題解決プロジェクト
さんてつ活用推進チーム
南リアス線 震災学習列車乗車会

いわて高等教育コンソーシアム詳細
http://www.ihatov-u.jp/

ご挨拶

岩手医科大学
医学部長･全学教育推進機構長
佐藤　洋一

コンソーシアムの使命

「創業は易く守成は難し」という言葉を目にしたのは、30 歳になるかならないかという少壮の頃、前任地の大学で学位研究に明け暮れていたときでありました。当時は、研究や教育に常に新規性を求めて七転八倒していた時期でもあり、「そんなことはあるわけない。単なるマンネリの言い訳に過ぎないであろう。」との思いを強く持ちました。その言葉を紹介されたのは生物学の老教授でありましたが、普段は攻めの姿勢を貫く方であっただけに、いささか奇異に思ったものです。しかし、実務担当としてコンソーシアムのたち上げから今日までその継続に携わってまいりましたが、思いおこしてみるとこの言葉が、いかに真実であるかをひしひしと感じております。

そもそも本コンソーシアムは、「重複する学部の無い岩手県の大学間の連携」が特徴の一つでした。それはシナジー効果をもたらすと単純に思われておりました。けれども、文部科学省の補助金を得てコンソーシアムという一つの組織をつくる段階になりますと、構成大学の諸々の相違が露呈して、話がなかなか前に進まないことが多々出てきました。教員のみならず、事務員間の意識もかなり異なっていたように思います。実質的な取りまとめをされた岩手大学の後藤先生はさぞや大変でしたでしょう。もっとも、その後藤先生の言に噛みついていたのは専ら小生であったのですが。お互い「なんで話が通じないんだ」と感じたものでした。創業はちっとも easy ではありませんでした。しかし、新たなことを構想して実行するのは、楽しいことでした。そして、なんといっても今まで知ることの無かったタイプの大学人と知り合いになれたため、視野が広くなったことを実感しております。すなわち創業は「楽しい」のです。だからこそ一生懸命やることになり、結果として成し遂げることができたのでしょう。

さて、数々のプロジェクトが立ち上がったのですが、継続するための補助金は時限でした。コンソーシアムが主体で震災関連の補助金も頂きましたが、いわゆる「紐付き予算」のため、思い通りの事業展開はできませんでした。そして、その補助金も終わりました。当初こそ補助金頼みの事業展開でしたが、これから当面の間はそれぞれの構成高等教育機関が行っている教育活動に相乗りする形で、コンソーシアムの事業が遂行されていくことになるでしょう。心が浮き立つ局面は少なくなります。教育効果は物差しで簡単に測れませんから、コンソーシアムの活動が学生の成長に役立っているかどうかも判定しにくく、「コンソ無用論」の意見が出てくることも考えられます。まさしく「守成は難し」です。

ここからが、コンソーシアムの正念場であると存じます。このコンソーシアムの活動に携わった方々は、異分化交流を通じた独自の人脈ネットワークを作り上げたと思います。この無形の成果をもとに各大学の活動は、一層、活発化してきたのではないでしょうか。岩手の地で高等教育に携わる大学人が互いに啓発し合う場所があると無いとでは大違いなのです。「コンソーシアムの使命は、継続にあり」という思いを日増しに強く思っております。

地域リーダー育成プログラム「地域を担う中核的人材」認定証授与式

平成 27 年度から開始された、いわて高等教育コンソーシアム「地域リーダー育成プログラム」では、平泉や賢治らに育まれた共生の思想（人と自然との共生、万物の共生）を尊び、地域全体を思いやるリーダーとして、コーディネート力を備え、多様な領域・局面で地域の中核を担う人材の育成を目指して各種プログラムを展開しております。

当プログラムは、いわてコンソ連携校（単位互換協定校）の学生を対象にしたもので、あらかじめ指定された地域課題や復興に関わる科目（コア科目）の必要単位（４科目８単位以上）を修得し、さらに地域の課題解決策を学生たちが主体的に考え実行する「地域課題解決プロジェクト」を遂行したうえで、審査に合格した学生には、「地域を担う中核的人材認定証」が授与されます。

この度、プログラム開始以降初の「地域を担う中核的人材認定者」が決定し、認定証授与式が執り行われました。

認定証授与者
岩手大学農学部生物産業科学コース３年　吉野明子さん
岩手大学教育学部日本語・地域文化コース４年　梅木紳太郎さん
認定証授与式
［日時］平成29年7月21日(金) 11時30分～12時00分 ［場所］岩手大学事務局棟２階　第一会議室

岩手大学農学部 3年　吉野明子さん

岩手大学教育学部 4年　梅木紳太郎さん

岩手大学農学部３年の吉野明子さんは平成 27 年度の地域課題解決プロジェクトとして、「久慈市の魅力を全国へ～肉鉄を走らせよう～」に参加し、地元久慈地域の高校生とともに、三陸鉄道を利用した取り組みの企画立案を行いました。このときは残念ながら企画実現には至りませんでしたが、この経験を糧に、平成 28 年度のプロジェクト「三陸鉄道の有効利用：さんてつで学ぶ地域の魅力」では、中心的役割を担うスタッフとなり、活動を牽引しました。

岩手大学教育学部４年の梅木紳太郎さんは平成 28 年度の地域課題解決プロジェクト「三陸鉄道の有効利用：さんてつで学ぶ地域の魅力」において、吉野さん同様に「さんてつ活用推進チーム」の中心的スタッフとして活動し、積極的に意見やアイデアを出し、企画の実現に大いに貢献しました。

地域を担う中核的人材認定者といわて高等教育コンソーシアム連携校の大学長、学校長及びセンター所長

認定者のお二人は今年度もさんてつ活用推進チームの活動を継続し、中心的スタッフとして活躍しています。

いわて高等教育コンソーシアムでは、今後も地域の中核を担う人材の育成に向け「地域リーダー育成プログラム」を継続することとしています。

前期集中講義「いわて学Ⅰ」

「いわて学」は、岩手県内の大学による共通授業として、岩手県立大学が主務校となり平成 22 年度から開講しています（8 年目）。平成 29 年度前期は、『三陸から知るいわて』をテーマとして、三陸の自然環境等の地域特性・災害復興に焦点をあてた集中講義等を 5 月 20 日（土）から 6 月 18 日（日）までの間で開講しました。

岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学の 4 校から履修登録があり、履修登録者数は 86 名、うち単位取得者は 65 名でした。講義については、前半は三陸全体の自然、民俗等について県立大学での講義のほか、岩手県立博物館での現地講義を行いました。

後半は、2011 年東日本大震災による津波の被害を受けさらに 2016 年 8 月の集中豪雨による被害を受けた岩泉町で、集中豪雨の原因や、産業の復旧等について、岩泉ホールディングス株式会社代表取締役社長山下欽也氏他外部講師を招聘して事前学習を行った後に、現地講義を行いました。現地講義では、東日本大震災津波被害からの復旧と集中豪雨による災害復旧の状況について、岩泉乳業㈱、小本・中島地区、津波・10 号台風被災地、龍泉洞の水工場、龍泉洞、うれいら商店街等を訪問し、企業や地域の方々から直接話を伺いました。学生は、岩泉町の被害と復興の現状を深く学ぶことができました。

うれいら商店街 地域住民からのヒアリングの状況

龍泉洞の水　工場見学

回	日程		テーマ・内容	講師（敬称略）	会場
1	5/20（土）	9:30～12:40	○地誌から知る岩手・三陸（岩泉を中心に）	岩手県立大学／名誉教授 豊島正幸	岩手県立大学 共通講義棟107講義室
			○三陸復興 国立公園とみちのく潮風トレイル	岩手県立大学／渋谷晃太郎	
2	5/27（土）	9:30～15:00	○博物館で学ぶ三陸いわて（岩手県立博物館　現地講義）		岩手県立博物館
			「三陸にみる岩手の民俗」	岩手県立博物館／小野寺俊彦	
			「三陸の地質」	岩手県立博物館／望月貴史	
			博物館の展示物から見る三陸いわて	岩手県立博物館／豊島正幸	
3	6/3（土）	9:30～12:40	○生物（淡水魚）から見たさんりくの自然	岩手県立大学／鈴木正貴	岩手県立大学 共通講義棟107講義室
			○三陸ジオパーク	三陸ジオパーク推進協議会／熊谷　誠	
4	6/10（土）	9:30～12:40	○気候変動と自然災害	岩手県立大学／佐野嘉彦	岩手県立大学 総合政策棟102講義室
			○岩泉乳業の原点と未来	岩泉ホールディングス株式会社／山下欽也	
5	6/17（土）	8:00～17:00	○三陸の魅力発見と災害からの復興（岩泉町周辺で現地講義） 岩泉乳業㈱、 小本・中島地区津波・10号台風被災地、 龍泉洞の水工場、龍泉洞、うれいら商店街	◎岩手県立大学／渋谷晃太郎、鈴木正貴、名誉教授 豊島正幸 ◎岩泉乳業㈱／下道　勉、大西健史 ◎龍泉洞の水充填施設／佐々木廣樹 ◎岩泉町関係者／中島地区…西倉淳也、千葉敏行、千葉慎也、千葉遥香　　うれいら商店街…茂木素子、橋本充司	岩泉町
6	6/18（日）	10:00～13:10	○振返りとまとめ	岩手県立大学／渋谷晃太郎、鈴木正貴、名誉教授 豊島正幸	岩手県立大学 マルチメディアラボ

前期集中講義「ボランティアとリーダーシップ」

「ボランティアとリーダーシップ」は、ボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割や組織の動かし方等に関する講義や実習を通じ、様々な状況に対応し得る能力と知見を修得することを目的に、平成 24 年度から始まった特別講義（前期集中講義）です。今年度の履修学生は 55 名（岩手大学 50 名、盛岡大学2名、一関高専2名、長崎県立大学1名）となりました。

初日、盛岡駅前のマリオスを会場に長崎県立大学の西村千尋先生による「コミュニケーショントレーニング」が行われました。初め、緊張が見られた参加学生の皆さんでしたが、プログラムが進むにつれてすっかり打ち解けていました。

2 日目からは、山田町の岩手県立陸中海岸青少年の家で3泊4日の合宿を行いました。四天王寺大学の吉田祐一郎先生による「ボランティア」の講義では、ボランティアの基礎知識、災害ボランティアの意義を学び、西村・吉田両講師による「グループワーク」ではコミュニケーション能力、フォロワーシップの必要性等を学びました。

合宿2日目は、合宿初日の学びを実践する場である「ボランティア実習」として、山田町の伝統ある「大杉神社神幸祭」における「十二支巡行」（十二支の干支を模したものを持って練り歩く）を担当させて頂いた他、会場周辺の清掃等、地元、山田町の方々と交流しながらお祭りを盛り上げました。

合宿3日目の岩手大学の後藤尚人先生による「リーダーシップ」の講義では、今後求められる地域リーダー像や、リーダーに求められる能力・資質について学びました。

本特別講義への参加を通じて、学生の皆さんの様々な意識の変化や成長がみられた講義となりました。参加学生の今後のそれぞれの活動に繋がる事を期待します。

長崎県立大学 西村先生講義「コミュニケーショントレーニング」

ボランティア実習:山田町「大杉神社神幸祭」の十二支巡行

四天王寺大学 吉田先生講義「ボランティア」

講義最終日　集合写真

大学での学びをちょっとのぞいてみませんか？
～ 駅前講義 ～

8月8日（火）、岩手県立大学アイーナキャンパス（盛岡駅西口）において、県内高校生の大学進学率向上を目的とする「駅前講義」が実施されました。

今年度は、「100年後の未来から今を考える」と題して、岩手県立大学齋藤副学長より、未来を想定しながら大学生に求められる力等についての講義が行われました。講義には、県内9つの高校から保護者含め18名の参加があり、講義後には、大学生による相談対応が行われました。また、大学進学のPRに関する展示、研究事例紹介や大学生活紹介等の展示も行いました。

受講者からは、「高校では学ぶことができないような様々な視点から進路選択に関する話を聞けてよかった」「大学で身につけられる人間力は様々な問題の解決に必要であるとわかった」等の感想が寄せられました。

展示会場の様子

岩手県立大学齋藤副学長による講義

グローカル基礎研修「平泉の世界」

本講義は平泉を広いスパンで捉えることを目的としており、本年度は８月16日（水）から19日（土）に実施しました。受講者は19名(岩手大学生18名、盛岡大学生１名:うち留学生１名)でした。初めに、基礎知識を得るため、「歴史学」「考古学」「民俗学」の観点から平泉について学びました。３日目の午後には５グループに分かれ、中尊寺（金色堂とそれ以外）・毛越寺・無量光院跡・柳之御所跡について、これまでの学習成果をふまえて文献調査を行いました。

最終日には、伊藤博幸平泉文化研究センター客員教授の案内のもと、現地見学を行いました。各所の見学に際して、グループワークの調査内容について報告しました。受講者全員が、講義・グループワーク・現地見学及びプレゼンテーションに熱心に取り組み、とても充実した内容の講義となりました。

毛越寺にて

中尊寺讃衡蔵の前で

FD・SD研修会

FD・SD連携推進委員会では、9月11日に、岩手医科大学薬学部教授の駒野宏人先生を講師として、FD・SD研修「学生への学習・研究指導に役だつコーチング技法（入門）」を行いました。

事前に駒野先生より「ペアワークを行いたい」というご要望を伺っておりましたので、席配置の都合上「事前申し込み制」を取りましたが、それにもかかわらず、5つの大学から52名の教職員の参加がありました。開始前は緊張した雰囲気でしたが、最初の自己紹介の時から会場は盛り上がり、研修中のペアワーク、グループワークも活発に行われていました。

コーチングの基本は「傾聴」「承認」「質問」ということでしたが、これらを実施するための具体的な「スキル」を身につけることで、指導者としての指導スキルの幅を広げることができるのだろうと思います。

委員会では、「コーチング」についての具体的なスキルの研修や学生を含めた研修についても企画しておりますので、ご都合がつきましたら、ぜひ、ご参加ください。

満席の会場

さんてつ活用推進チーム
南リアス線 震災学習列車乗車会

「さんてつサポーターズ」は、いわて高等教育コンソーシアム地域課題解決プロジェクトの一環として、2016年から活動を続けているボランティア（一般参加者を含む）チームです。

東日本大震災・津波での被害後も素早く営業を再開し、震災学習列車の運行など独自の取り組みを続けている三陸鉄道をボランティア活動で支えることを目的として様々な活動を展開しています。

今年度は、平成29年8月5日（土）に南リアス線の震災学習列車乗車会を企画・実施しました。

当日は一般参加者を含めて総勢15名が参加しました。

震災学習列車内では、三陸鉄道南リアス線運行部盛駅熊谷副駅長から震災当時の様子や三陸地方の今、そして三陸鉄道の魅力等について説明して頂きました。参加者は車窓からの情景を見ながら真剣にメモを取っていました。

上記のような取り組みを通じて、さんてつサポーターズ登録者もじわじわと増えております。

今後もさんてつサポーターズは、三陸鉄道の活性化を通じて、復興の力となるべく活動を継続していく予定です。

熊谷副駅長による説明を聞く参加者

サポーターズ限定ヘッドマーク付震災学習列車

発行連絡先	いわて高等教育コンソーシアム事務局 （岩手大学総務部総務広報課内） 〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8 TEL.019-621-6855　FAX.019-621-6014 [E-mail]ihatov5@iwate-u.ac.jp　[URL]http://www.ihatov-u.jp/	構成校	岩手大学 岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部・ 岩手県立大学宮古短期大学部 岩手医科大学 富士大学 盛岡大学・盛岡大学短期大学部 放送大学岩手学習センター 一関工業高等専門学校

平成29年9月30日発行